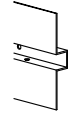


1時間耐火構造

鉄骨下地

金属胴縁



縦張り



# センターサイディング

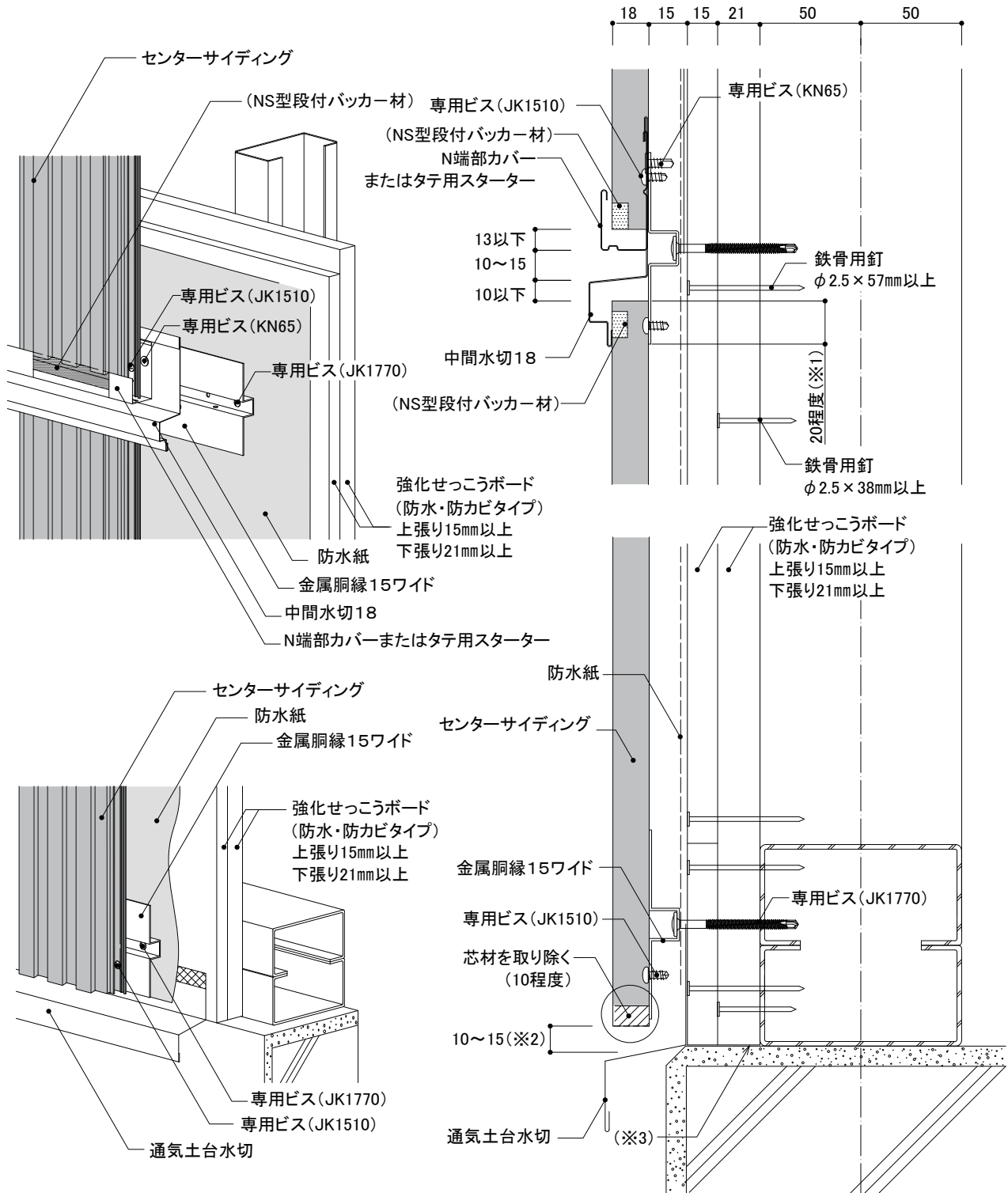
NS型

## 上下接合部

中間水切+N端部カバーまたはタテ用スターター

## 土台部

## 端部芯材切り欠き

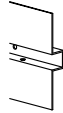


※1 金属胴縁15ワイド1本に上下接合部を施工する場合、下側のセンターサイディングは金属胴縁15ワイド下端から20mm程度重ねて配置します。  
 ※2 土台部のC形鋼と縦下地のC形鋼との隙間に留意し、土台水切および金属胴縁15の位置を調整してください。  
 ※3 吹き上げ等による雨水浸入を防ぐため、止水処理が確実に実行されていることを確認してください。  
 注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。  
 注: 断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地

金属胴縁



縦張り



# センターサイディング

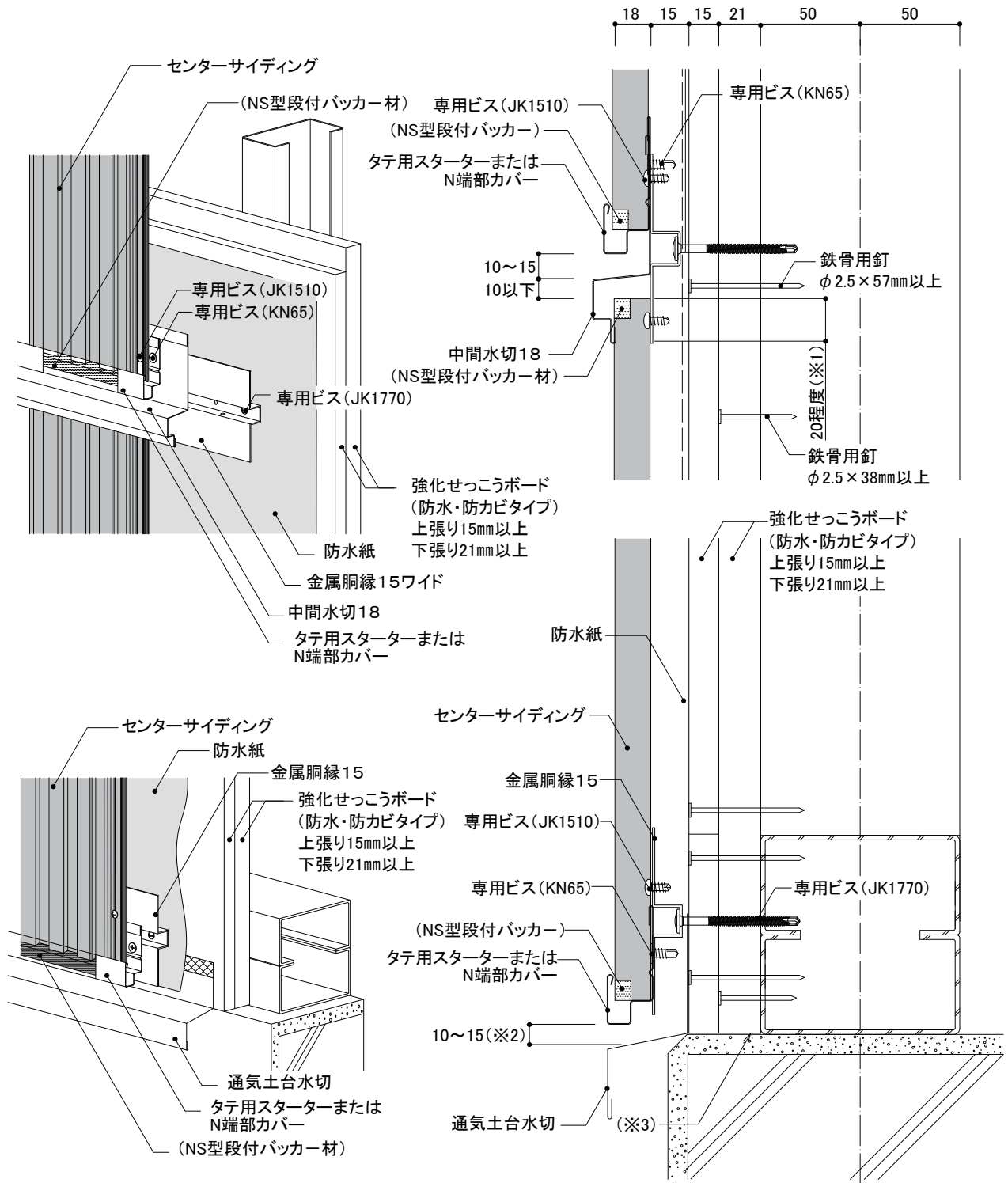
NS型

## 上下接合部

中間水切+タテ用スターターまたはタテ用スターター

## 土台部

通気土台水切+タテ用スターター

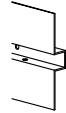


- ※1 金属胴縁15ワイド1本に上下接合部を施工する場合、下側のセンターサイディングは金属胴縁15ワイド下端から20mm程度重ねて配置します。
  - ※2 土台部のC形鋼と縦下地のC形鋼との隙間に留意し、土台水切、金属胴縁15および端部カバーの位置を調整してください。
  - ※3 吹き上げ等による雨水浸入を防ぐため、止水処理が確実に行われていることを確認してください。
- 注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。  
注: 断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地

金属胴縁



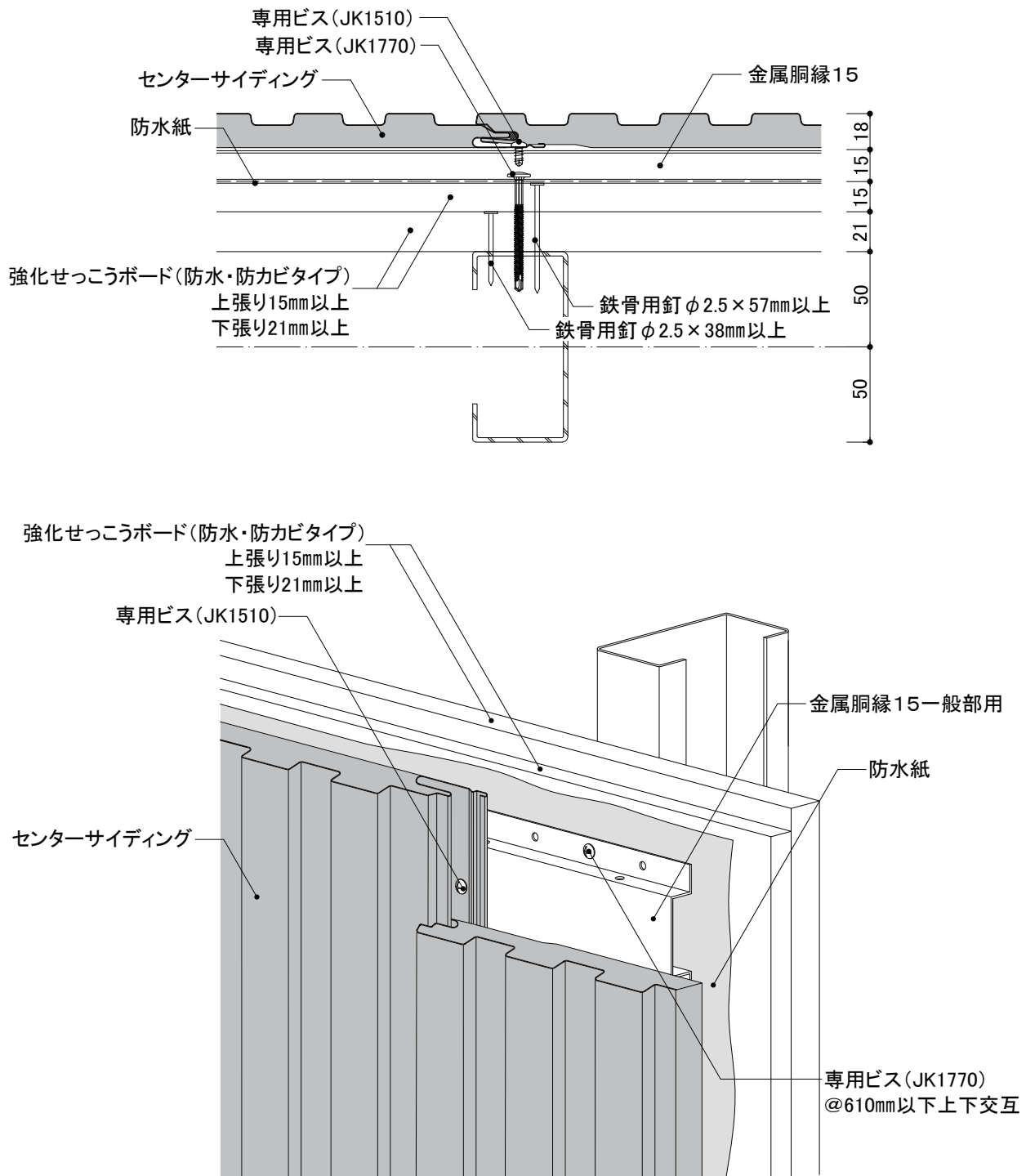
縦張り



センターサイディング  
NS型

### 左右接合部

### 嵌合

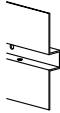


注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。  
注: 断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地

金属胴縁



縦張り



# センターサイディング

NS型

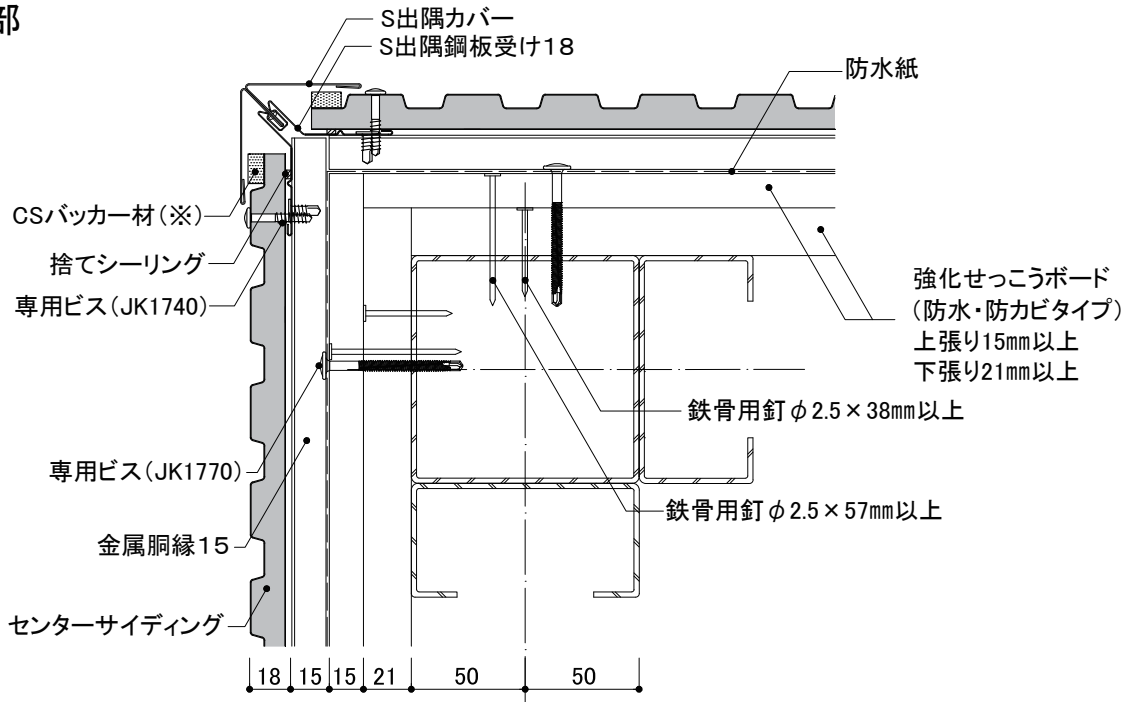
出隅部

S出隅鋼板受け18+S出隅カバー

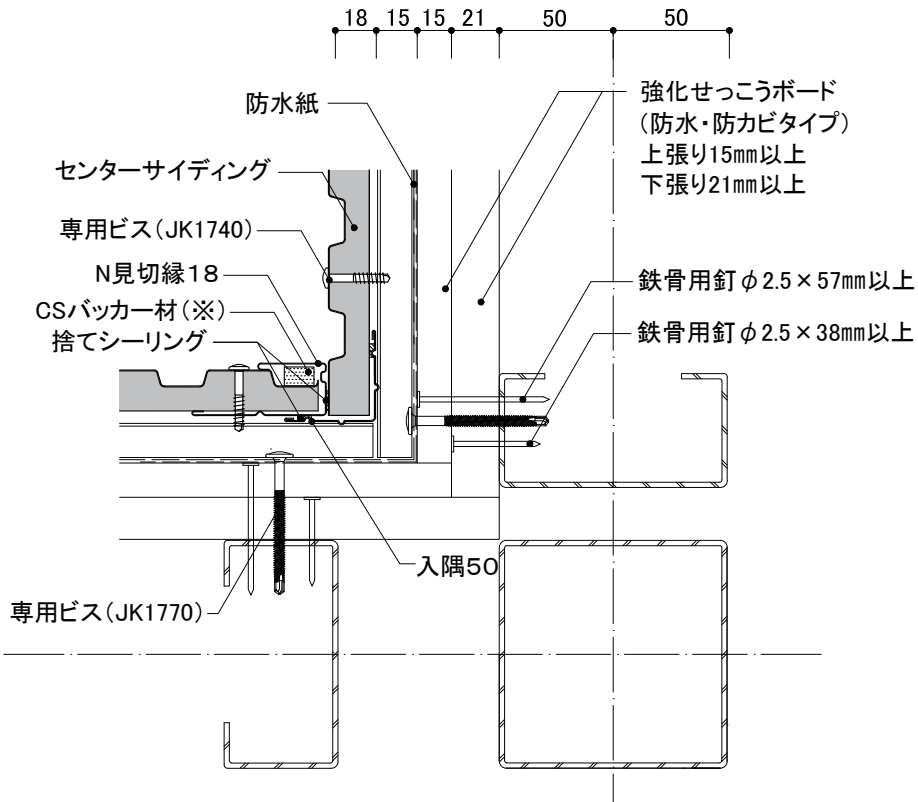
入隅部

N見切縁18

### ■ 出隅部



### ■ 入隅部



※: センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18およびS出隅カバーと隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSバッカー材を貼り付けます。

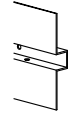
注: 下地鉄骨胴縁は口-100×100およびC-100×50×20を使用した場合の図面です。

注: 断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地

金属  
胴縁



縦  
張り



# センターサイディング

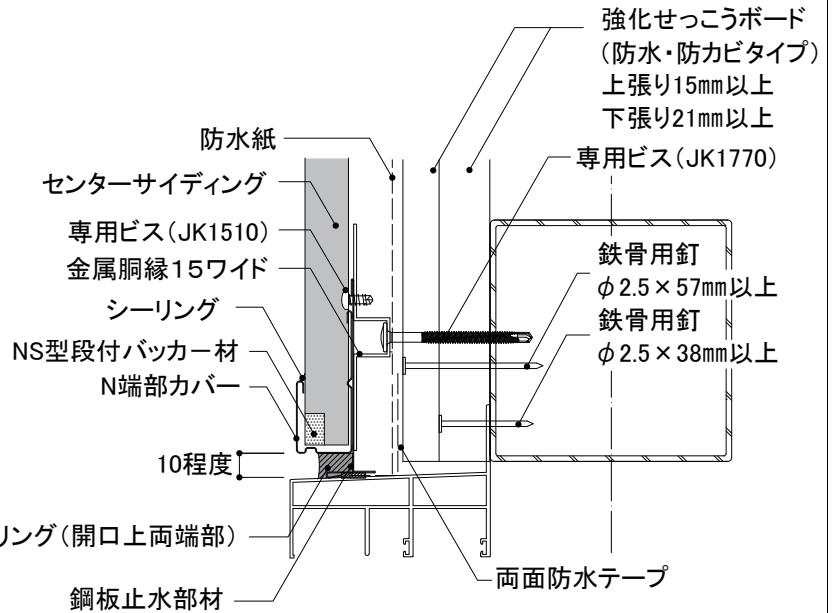
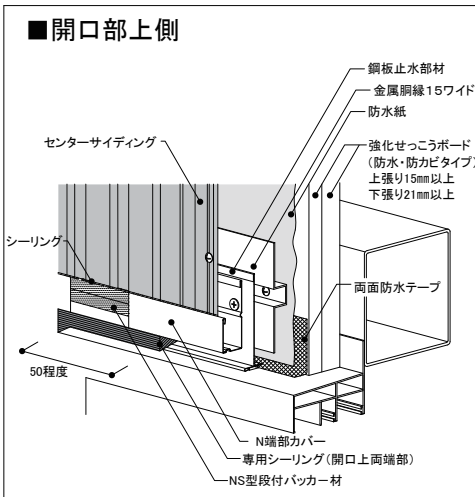
NS型

## 開口部周囲

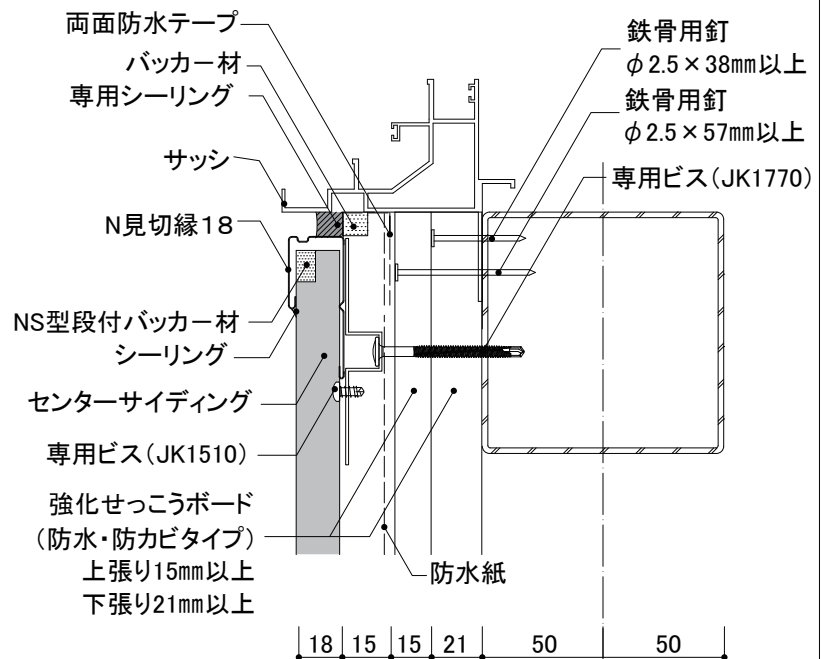
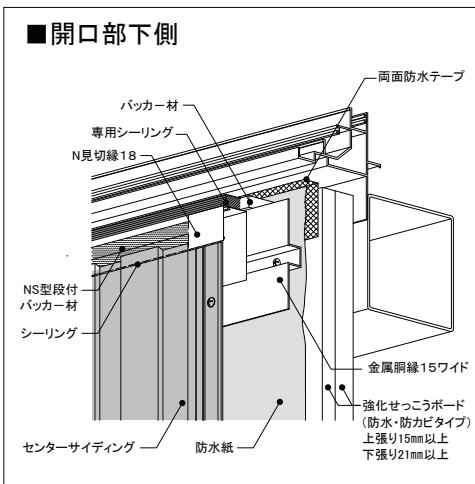
## 開口部上側(鋼板止水部材)

## 開口部下側

### ■開口部上側



### ■開口部下側

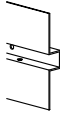


注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨造用外付けサッシを使用した場合の図面です。サッシの納まりについてはサッシメーカー様にお問い合わせください。  
注: 断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地

金属胴縁



縦張り



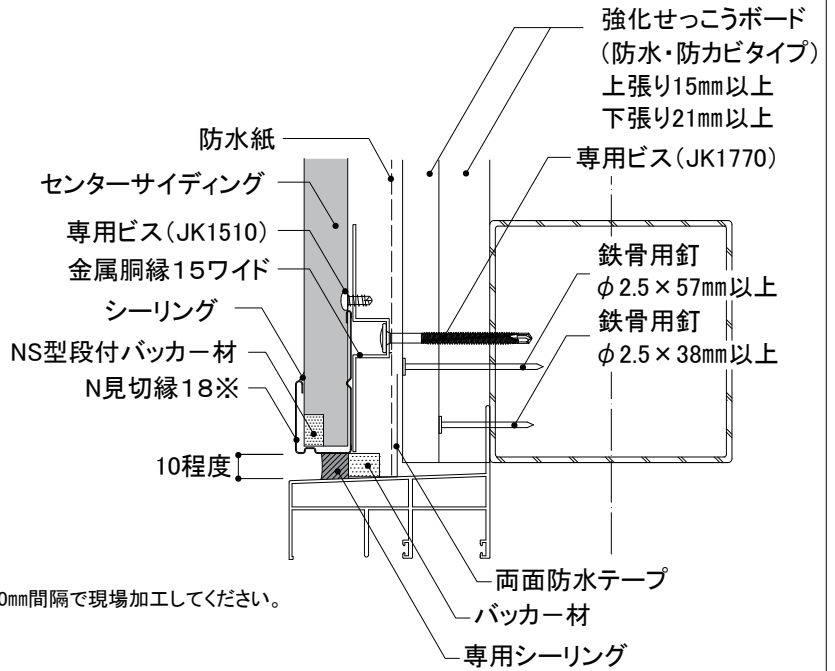
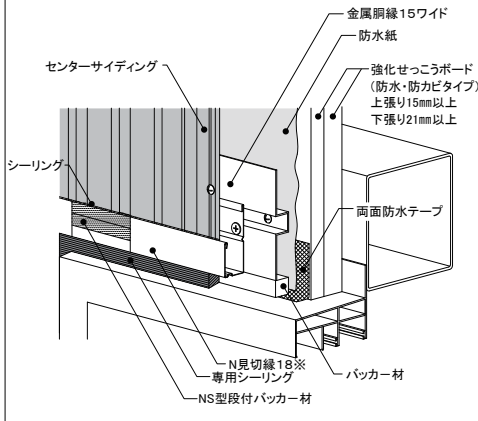
センターサイディング  
NS型

### 開口部周囲

### 開口部上側(全長シーリング)

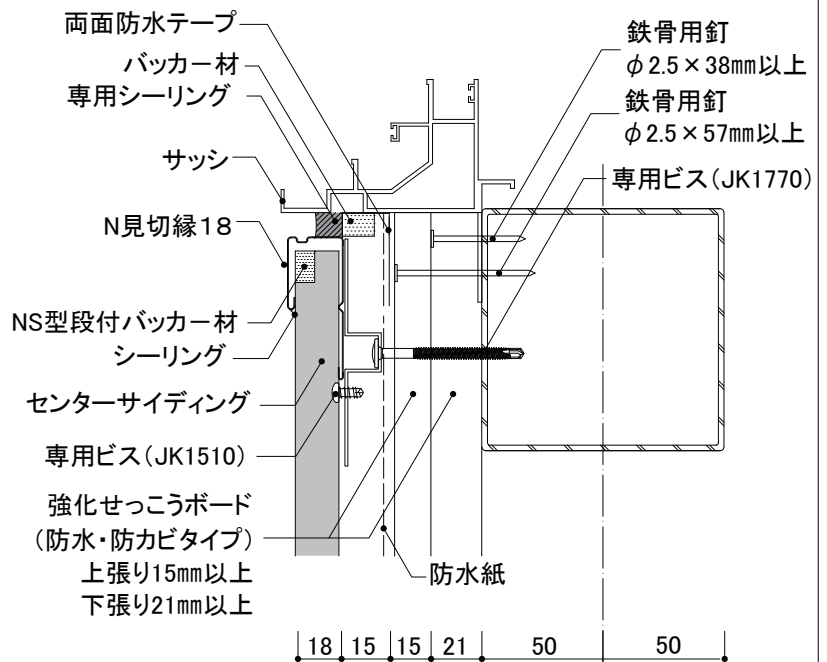
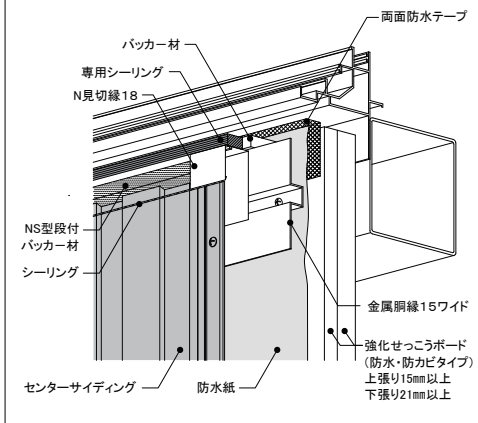
### 開口部下側

#### ■開口部上側



※N見切縁18は部材先端の方にφ6mmの孔開けを300mm間隔で現場加工してください。

#### ■開口部下側



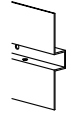
注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨造用外付けサッシを使用した場合の図面です。サッシの納まりについてはサッシメーカー様にお問い合わせください。

注: 断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地

金属胴縁



縦張り

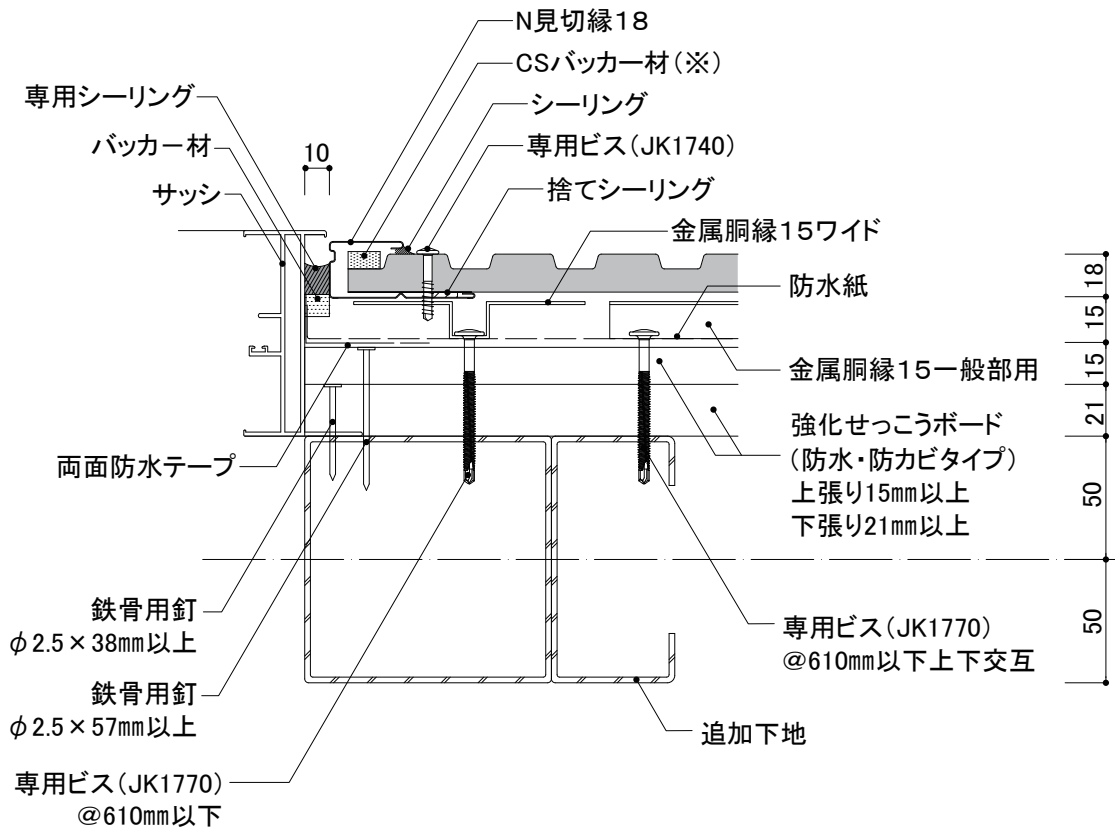


# センターサイディング

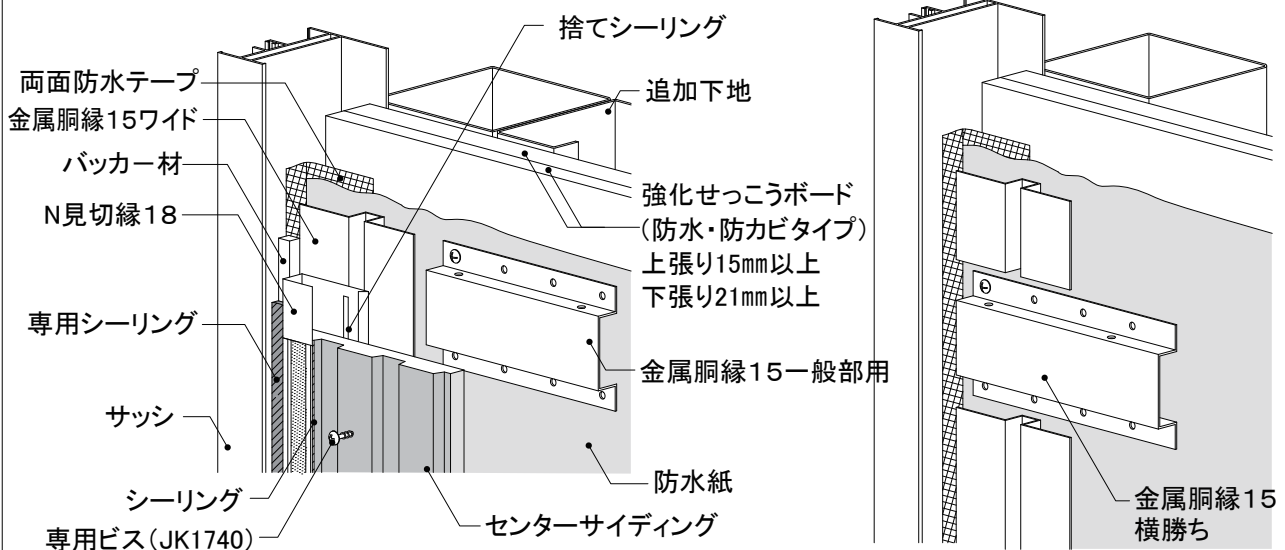
NS型

## 開口部周囲

## 開口部左右



【開口左右に追加下地がない場合】  
金属胴縁15は横勝ちとしてください



※:センターサイディング端部が柄凹部でN見切縁18と隙間ができる場合は、必要に応じて図のようにCSバックカー材を貼り付けます。

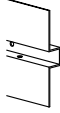
注:下地鉄骨胴縁はC-100×50×20、サッシは鉄骨用外付けサッシを使用した場合の図面です。サッシの納まりについてはサッシメーカー様にお問い合わせください。

注:断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地

金属胴縁

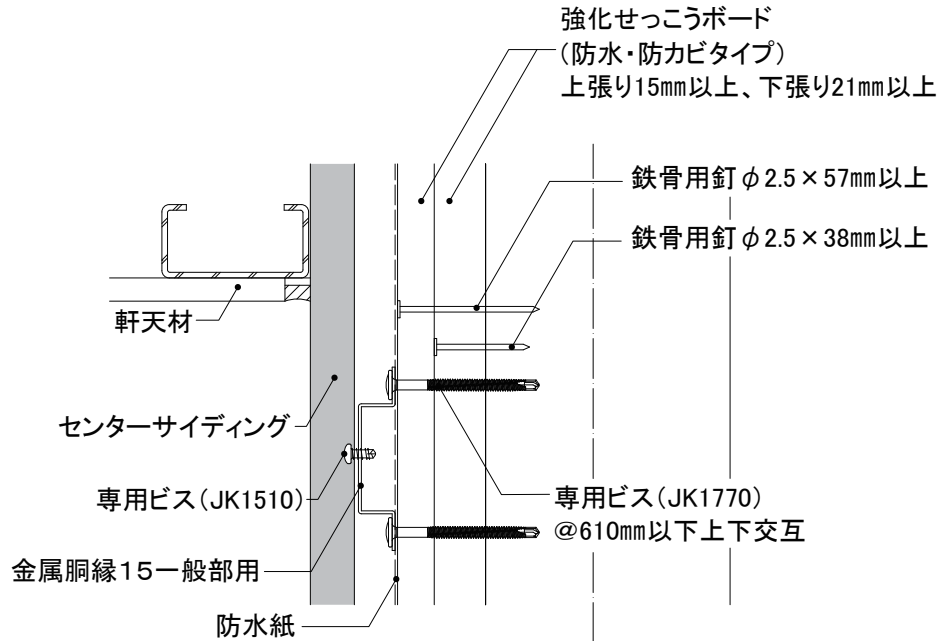


縦張り



センターサイディング  
NS型

## 軒天部



注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。  
注: 断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地



縦張り



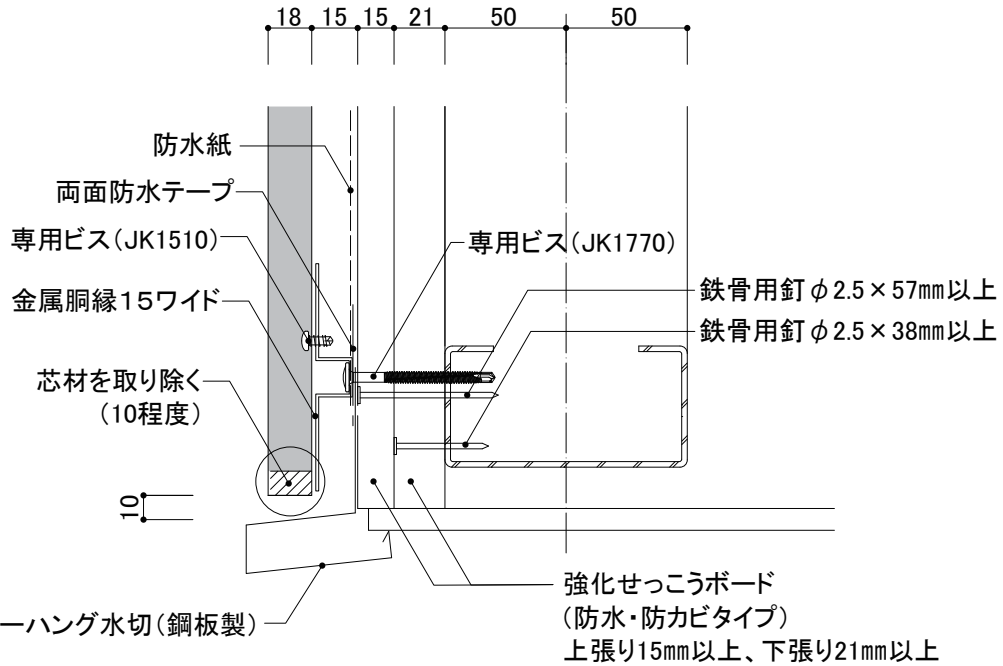
# センターサイディング

NS型

## オーバーハング部

## オーバーハング水切(鋼板製)

### 端部芯材切り欠き

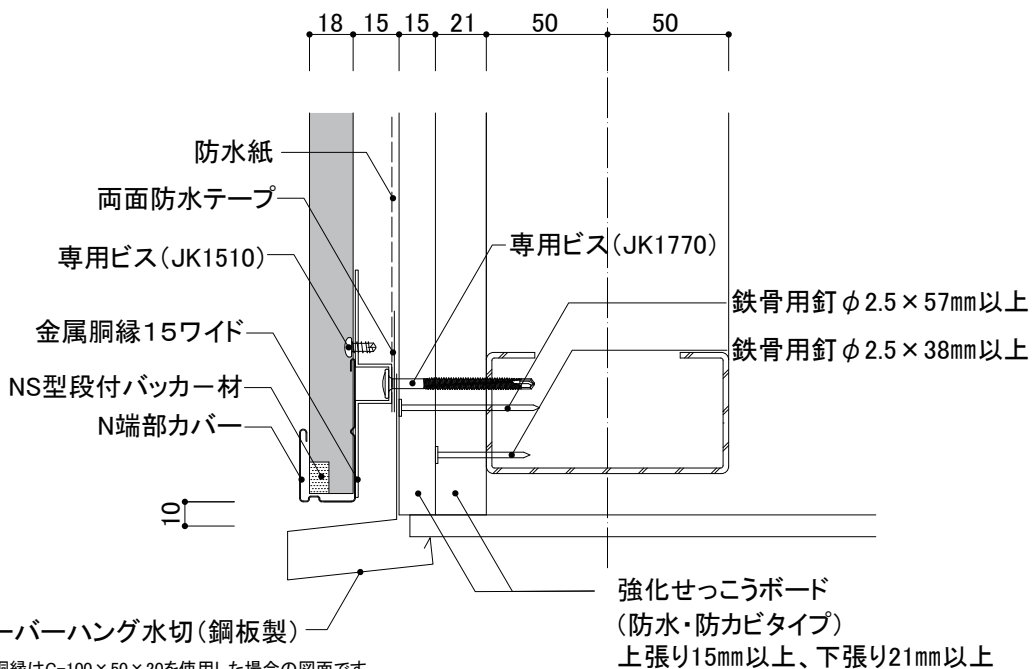


注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。  
注: 断熱材なしの構成で表現しています。

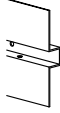
## オーバーハング部

## オーバーハング水切(鋼板製)

### N端部カバー



注: 下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を使用した場合の図面です。  
注: 断熱材なしの構成で表現しています。



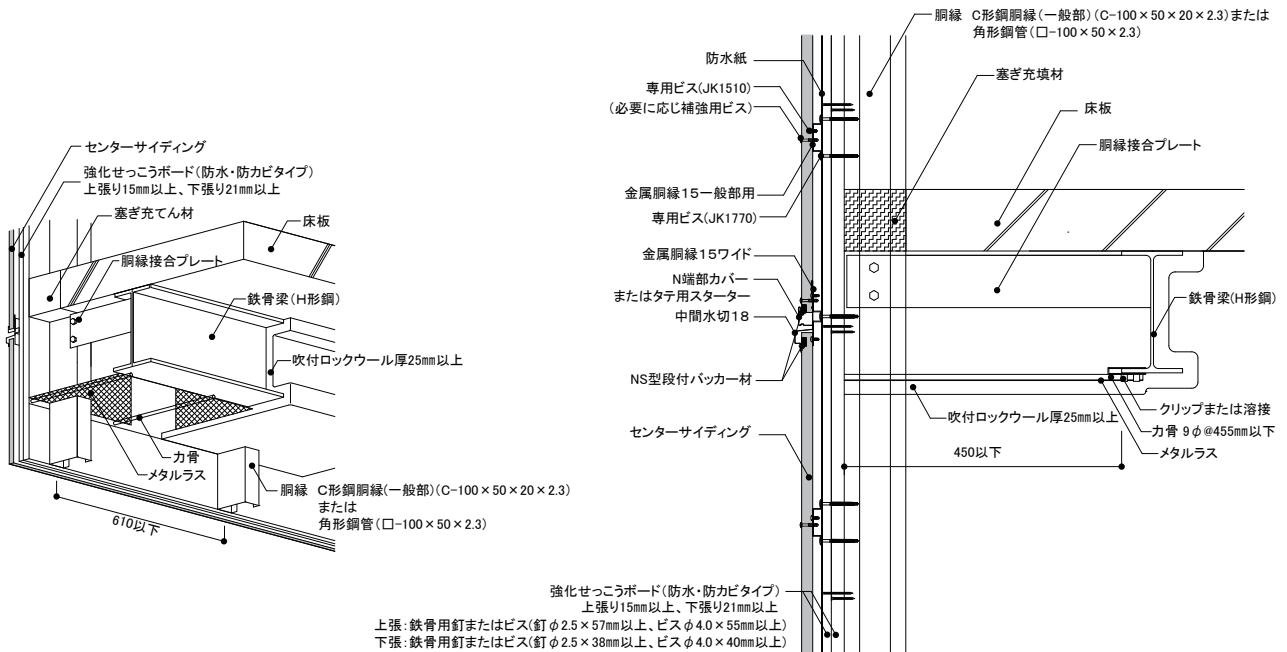
## 梁取り合い部

FP060BM-0640-2 (H-200 × 100 × 5.5 × 8mm以上)

### ■ 梁部耐火被覆材の施工

- ラス下地工事は、力骨を鉄骨梁に溶接などで取り付け、メタルラスを鉄骨梁と外壁の間に結束線で張り付けます。
- 鋼材下地表面の浮き錆および付着油など、吹付ロックウールの付着性に支障を起すおそれのあるものは十分清掃してください。
- 吹付下地の取り付け
  - 下地は455mm以下の間隔で力骨(φ9mm丸鋼)の一端を鉄骨へクリップまたは溶接で固定し、メタルラスを力骨へ200mm以下の間隔で緊結します。ただし、外壁と鉄骨下地との取合部間隔が45mm未満の場合は、その部分の吹付下地が省略できます。なお、取合部間隔は450mmを超えてはいけません。
  - 中空タイプのメタルラスの張り付けは中空の形状に応じて、鉄骨周囲の吹付面にメタルラスを張り付けてください。
- 養生
  - 施工前は、吹付による材料の周囲への飛散防止ためシートなどで養生します。
  - 施工後は、吹付作業が完了した部分が、衝撃および雨水などで障害を受けないよう適切な養生を行います。
  - 寒冷地では嚴重な凍結防止対策養生を行います。
  - 吹付仕上げにはコテ押さえをしてください。
- 被覆材(吹付ロックウール)の施工
  - 吹付作業は、材料の配合、吐出量の調整および吹付作業について、ロックウール工業会編「吹付ロックウール被覆耐火構造施工品質管理指針」に従い、規定の品質を確保してください。
  - ロックウール工業会指定の測定具で、吹付け面積5㎡ごとに1ヶ所以上、ロックウールの厚さが25mm以上を確認しながら施工します。
- 外壁の施工
  - 外壁の施工は、外壁耐火構造各部納まり図をご参照ください。

### ■ 鉄骨梁(H-200 × 100 × 5.5 × 8mm以上)



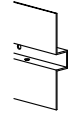
※図は中間水切ありで表現しています。

※認定書別添の内容をご確認ください。  
 ※図は断熱材なしの構成で表現しています。

1時間耐火構造

鉄骨下地

金属  
洞縁



縦  
張り



センターサイディング  
NS型

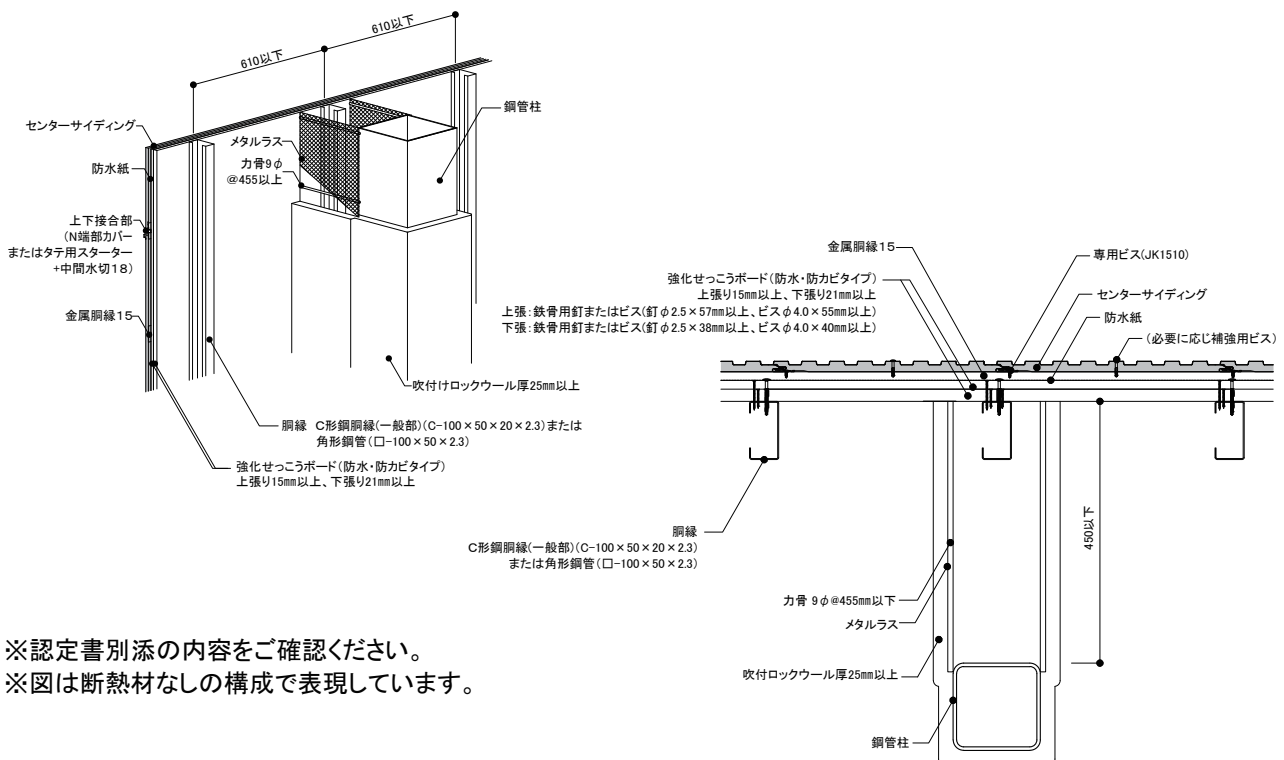
## 柱取り合い部

鋼管柱:FP060CN-0917-2(□-150×150×6mm以上)

### ■柱部耐火被覆材の施工

- 柱は鋼管柱(断面寸法□-150×150×6以上)を使用します。
- ラス下地工事は、力骨を柱に溶接などで取り付け、メタルラスを柱と外壁の間に結束線で張り付けます。
- 鋼板下地表面の浮き錆および付着油など、吹付ロックウールの付着性に支障をきたすおそれのあるものは十分清掃してください。
- 吹付下地の取り付け
  - 下地は455mm以下の間隔で力骨(φ9mm丸棒)の一端を鉄骨へ溶接または接合クリップで固定し、メタルラスを力骨へ緊結します。ただし、外壁と鉄骨下地の取合部間隔が45mm未満の場合は、その部分の吹付下地が省略できます。なお、取合部間隔は450mmを超えてはいけません。
  - 中空タイプのメタルラスの張り付けは中空の形状に応じて、鉄骨周囲の吹付面にメタルラスを張り付けてください。
- 養生
  - 施工前は、吹付による材料の周囲への飛散防止のためシートなどで養生します。
  - 施工後は、吹付作業が完了した部分が、衝撃および雨水などで障害を受けないよう適切な養生を行います。
  - 寒冷地では嚴重な凍結防止対策養生を行います。
  - 吹付仕上げにはコテ押さえをしてください。
- 被覆材(吹付ロックウール)の施工
  - 吹付作業は、材料の配合、吐出量の調整および吹付作業について、ロックウール工業会編「吹付ロックウール被覆耐火構造施工品質管理指針」に従い、既定の品質を確保してください。
  - ロックウール工業会指定の測定具で、吹付け面積5㎡ごとに1ヶ所以上、ロックウールの厚さ25mm以上を確認しながら施工します。
- 外壁の施工
  - 外壁の施工は、外壁耐火構造各部納まりをご参照ください。

### ■鋼管柱(□-150×150×6mm以上)



※認定書別添の内容をご確認ください。  
 ※図は断熱材なしの構成で表現しています。